



徳成寺

寺にもかわら版

第173号 2021年5月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

発行責任者

住職

大山健児

坊守

大山ひとみ

「おどろかす 甲斐こそなけれ 村雀 耳なれぬれば 鳴子にそのる」

とは、蓮如上人の詠んだ歌です。村の雀たちも最初は、けたたましい鳴子の音に一齐に飛び立っていたのに、何度も何度も繰り返している間に、恐れていたはずの鳴子に乗ってしまうようになると詠んでいるのです。

それに続けて「ただ人は皆 耳なれ雀なり」と仰せられしと記されています。

つまり、人は誰も耳慣れた雀のようだと蓮如上人は仰ったそうです。3度目の緊急事態宣言が出されてみると、その通りだと頷かないわけにはいけません。

よく「喉元過ぎれば熱さ忘れる」と申します。1年以上続くコロナを忘れたい気持ちはどなたも山々ですが、まだまだ喉元を過ぎてはいないようです。



ワクチンが行き渡り、大多数の人が接種する目途も見えてきたようですので、

今しばらく辛抱しましょう。明けない夜はありません。必ず笑い話になる日が来ます。

大山超世の耳を澄ませば

お世話になっています、副住職です。



ひとり暮らしの時に巨大な鍋を購入しました。おかずがいっぱい作れると思って買いましたが、大きすぎて使い勝手が悪く、失敗したと思っておりました。しかし、手放すことなく大事にとっておいたら先日、家庭用の鍋では入り切らないくらい立派な竹の子を頂き、その鍋で何とか下処理ができました。コロナ流行が第3波を迎える中で、何かが無駄で何かが必要でといった二者択一の論議を耳にします。しかし、この論議は全てにおいて「私にとって」という枕詞がつきものです。本質的に無駄なものではなく、あらゆる存在が誰かにとって必要なものです。簡単に切り捨てるのではなく、生きる道を模索する重要さを鍋から教えてもらった気がします。写真は頂いた竹の子を使って竹の子三昧した時のものです。竹の子多めの青椒肉絲、酸辣湯(酸っぱい辛い野菜の中華スープ)、竹の子ご飯です。余さず頂きました。ごちそうさまでした。